

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4391300177		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	宇城市松橋町松橋1621-1		
自己評価作成日	平成28年3月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は同敷地内に隣接するグループホーム・ドリームまつばせの姉妹施設として開設し1年が経過しました。自然豊かで季節を感じられる明るい環境の中入所者様は笑顔で穏やかに生活されており、職員も入所者様及びご家族様の安心・満足を得るべく種々サービスの提供に連携して取り組んでいると共に自己のスキルアップも目指し日々ケアの質の向上に努めています。ドリームまつばせとの一体的な運営の基、経験に裏付けされた良き面を取り入れ更に独自の特徴を活かすべく年3回の日帰り旅行、お花見、夏祭り、クリスマス会等楽しい行事を提供。又、地域に開かれた施設とすべく運営推進会議の定期的な開催等にてネットワーク構築にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

*「グループホームまごころ」は、開設後13年を迎えた母体グループホームに隣接して開設し、1年を経過したところである。年3回の日帰り旅行など、計画を練った外出とともに、「今日はお天気がいいから」と、臨機応変にドライブに出掛けるなど、利用者の楽しみや気分転換への支援が多く行われている。
* 職員と経営者及び職員間のコミュニケーションがよく図られており、気づきはお互いに注意し合える風通しの良い環境である。職員面接に於いても、楽しく働きやすい職場であるとの声が聞かれ、新しいホームをみんなで創っていく意欲が感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し常に見える化を図っている。又、定期的にミーティング等で掲げ、職員への理解、共有を徹底し、実践へつなげている。	「自立支援」「寄り添うケア」「地域との関わり」等5項目の理念を掲げ、玄関に掲示している。職員全員参加のミーティングで、定期的に職員それぞれが、理念を踏まえたケアの実践について自分の言葉で伝えることで、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りの近隣住民や小学生招待はじめ、小学校への雑巾寄与、散歩時の挨拶等地域との交流の場を設けている。	併設のグループホームと合同の夏祭りの際は、近隣や小学校に案内状を持参し、当日は80名ほど地域の方が集まる交流の場となっている。また、小学校への雑巾寄付、運動会見学、利用者と一緒に地区のゴミ拾い等を行う他、地域の方がサックスの演奏に来てくれることもあるなど、地域とのつながりが少しずつ広がってきている。	地域の方が気軽に立ち寄ることができるような場として、地域交流室がより有効に活用されるような工夫も期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて当事業所の取り組み、認知症の方への支援方法などの活動報告にて地域の方へ発信、展開しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の近況報告、活動実績報告はもちろん近隣地区や市との情報、意見交換を行い施設内でのサービスへ展開するようにしている。	運営推進会議は併設のグループホームと合同で、区長・民生委員・老人会長・市担当課・包括支援センター・利用者・家族等をメンバーに、2ヶ月に1回開催。ホームの活動報告後、1つテーマを決めて発表し、情報交換・意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各書類の提出、行政から情報提供求められた時の速やかな対応、運営推進会議や研修時での意見交換等にて協力的に取り組んでいる。	市担当課・包括担当者とは、運営推進会議を通して顔なじみとなっており、提出物や質問等ある際は電話や直接出向いて相談等行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する規範に基づき、全職員がその内容理解したうえで日中の玄関解錠、ベッド柵拘束の禁止等実践している。	自立の方が多いため、気づかないうちに出て行くことがないよう、職員間の連携で見守りに十分配慮している。帰宅願望のある方には、寄り添って話をしたり、家族と電話で話してもらったり、洗濯物たたみや掃除・折り紙や将棋等のアクティビティを提供して落ち着いてもらい、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、勉強会（ミーティング時研修内容の発表）にて全職員が理解し連携することで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修にて制度への理解を深め、必要な場面で助言、活用が出来るように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は「重要事項説明書」に基づき資料読み合わせ実施、説明内容について疑問点など質問も受け付け十分納得して頂いたうえでの承諾を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へご意見箱設置、常に利用者様やご家族の意見を反映出来る体制を整えている。	家族の面会は多く、職員は日頃の様子を伝え、お茶を出してゆっくりしてもらい、コミュニケーションを図っている。また、クリスマス会や夏祭りの際に家族が集まる時間を作り、食事をしながらのおしゃべりや、日常生活を写したフォトの上映、意見・要望等の聞き取りなど行い、家族の理解と信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング開催時には職員に意見や要望を掲げてもらい話し合える場を設け、運営改善に努めている。	月1回2時間に亘って行われるミーティングは、社長・ホーム長初め全職員が参加し、連絡・注意事項の伝達、研修報告の他、プラン作成や具体的なケアへの提案など、積極的な意見交換が行われている。また、物品・設備等についても直接社長・ホーム長に必要性を伝えることができるなど、風通しのよい職場環境となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者や職員の勤務状況把握、評価に努め、資格取得手当て含めモチベーション上げ働き易い環境を提供出来るよう推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は管理者や職員のスキルや学習意欲の把握に努め、種々研修機会の提供、実践における能力向上を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は管理者や職員の同業者との交流を目的に地区の勉強会やミニバレー大会等への参加を推進している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は以前ご利用されていた病院や他のサービス事業所より情報提供して頂き、又ご本人やご家族との面談にて不安や希望等傾聴することで気持ちを汲み取り安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はご家族様の要望等傾聴し、当施設でのサービス内容、今後ご家族様へ協力して頂く内容等納得し安心して頂ける説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者様(もしくはご家族様)へ面接しアセスメント情報収集、分析したうえで他のサービスも含めた初期ケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の性格や生活パターン、得意分野を見極め、職員と利用者様が共同作業することで信頼関係も徐々に構築されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族様来訪時は絆を深められる環境を提供し、 又日頃の様子や体調等を説明、双方 から利用者様を支えていけるよう心掛けて いる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望される方には今まで行っておられた地 域交流の場への参加を支援し、馴染みの方 との関係が続くよう配慮している。	家族・、友人・親戚等の来訪時は、お茶を出 して居室やデイルームでゆっくり過ごしても らっている。また、以前住んでいた地区のサ ロン出席を希望する利用者を送迎したり、ド ライブの際に自宅周辺をまわったり、家族が いる人には自宅への外出を送迎するなど、 馴染みの人や場所との関係継続支援に努め ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様が楽しく安心して暮らせるよう、孤 立している方を見掛けた場合は他者や職員 と一緒に出来るレクリエーション等を提供し 円滑な関係が継続できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点でサービスが終了した利用者様は居 られないが、ご家族も含め良好な関係性が 継続できるよう取り組んでいきたいと考えて いる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中での意向を確認するよう な声掛けに努めている。発語が出にくい方、 あまり自己主張されない方にもしっかりご本 人の意思を確認するよう努めている。	自分の思いを伝えられない方には、行動や 表情から思いをくみ取る努力をしており、気 づきはミーティングや申し送りノートで共有し ている。また、お花が好きな人には玄関や テーブルにお花を活けてもらったり、編み物 が好きな人には、毛糸を渡してコースターを 編んでもらったり、キャッチボールが好きな人 にはボールとグローブを準備して一緒に キャッチボールをするなど、意向に沿った活 動の支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族様からの情報、以前利用されていた サービス、又は病院の看護サマリー等を職 員全員把握している。又、毎日の中で知り 得た情報も記録し職員全員で共有・活用し ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活ペースを大事にして頂くことを大切にしている。又、一人一人の様子(表情・行動)をしっかり観察し、心身状態、持てる力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング時だけでなく必要と思われる時は職員、ホーム長、ご家族を交えて話し合い、ご本人がより良く暮らせるよう現状に即したケアプランを作成している。	半年に1回、居室担当者がモニタリングを行い、本人・家族の意向を踏まえて計画作成担当者がまとめ、年1回及び必要時にケアプランの作成・変更を行っている。本人の意思を大切に、できること・できないことを見極めて、残存能力の維持・向上に繋がるようなプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌には日常生活での利用者様同士や職員との関わりの様子、ご本人が発せられた言葉、行動を記録している。又、申し送りノートにて情報や気づきを共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への受診、買い物の支援、急な外出要望等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民や地元小学生との交流を大切にしている。月に一度地域の交流会やイベントに参加されている利用者様も居る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様に納得して頂いたうえで主治医の往診を月1回受けて頂いており、健康状態のチェックを行っている。急病や様態の変化時にも往診して頂ける体制作りが出来ている。	本人・家族の了解を得た上で、全員、協力医院をかかりつけ医とし、月1回の往診を受けている。日頃から利用者の状態について密に連携が図られており、緊急時の往診も可能な体制となっている。また、月2回の訪問看護で健康チェックが行われており、安心の医療受診体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護あり。利用者様の日々の動きや表情、食事量等をチェックし、異変を感じたら訪問看護や主治医へ相談、報告できる体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様入院時の本人やご家族様の不安が減少するようお見舞いや相談援助、病院関係者との情報交換を図り、機能低下等なく早く元の生活に戻るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを希望されるご家族様には希望に添えるよう十分話し合い、訪問看護や主治医と連携を図りながら又、職員内でも連携し最後まで看取れるようにしていく。	希望があれば看取りを行う方針であり、入居時に本人・家族に説明している。開設して1年経過したところで看取りの経験はないが、以前の職場で看取り経験のある職員や研修を受けた職員も数名おり、かかりつけ医・訪問看護との連携で、実施していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初期対応勉強会、定期的な訓練を実施している。緊急時の連絡体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、消防署立会いのもと避難訓練を行い、災害時にスムーズに避難出来るよう指導を受けている。又、設備の定期点検、防災マニュアル整備も実施している。	年2回、併設のグループホームと合同で避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得ている。地区の消防団班長にホームに来てもらい、間取り等確認済みであり、災害時には駆けつけてもらうこととしている。	運営推進会議委員にも訓練に参加してもらい、災害対策についての課題や地域で協力できること等について、気づきや意見を得るのも良いと思われる。また、食料の備蓄も必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重した言葉、距離、羞恥心を配慮しながら関わりを持つように支援している。	利用者と馴れ合いすぎないことを心がけており、羞恥心への配慮と丁寧な言葉使いに留意している。特に失禁時など、そっとトイレに誘導して衣類を用意したり、入浴時の同性介助を望む方には、男性職員はカーテンを閉めて声掛けを行うなど、個々の意向に応じて誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動の前には声掛けし、利用者様の意思を確認するようにしている。又本人様が希望される思いを傾聴し、代弁、尊重出来るように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調や習慣、生活ペース、その時々希望を大切に、意向を尊重しながら穏やかに過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、更衣時、本人様にどの服が良いか尋ねたり選んで頂いたりし、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事作業が出来る方、進んでして下さる方と一緒に調理。この時味付けを尋ねたり味見して頂いたりして好みにも配慮している。食事や後片付けも一緒に作業取り組んでいる。	献立は、利用者に食べたい物を尋ねたり、季節の物や冷蔵庫にある物を勘案して決め、毎日食材の買い物に出掛けている。利用者も、できることや希望に応じて、野菜を剥いたり切ったり、盛り付けや皿洗いなど、職員と一緒にやっている。また、職員も同じ食事を同じテーブルで食べており、会話を交わしながらの楽しい食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事摂取量を把握し、量を加減したり、その人の食べ易い形状にしたりする等考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後欠かさず本人様に声掛けし口腔ケアして頂いている。困難な方は支援し常に口腔内の清潔保持が出来るよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	殆どの利用者様は自立しておられ、困難な方には本人様の自尊心を傷付けないよう排泄チェック表をもとにその都度適切な支援を行っている。	排泄は全員自立で、それぞれ行きたい時に行っており、職員は基本的に見守りを行っている。時に失禁のある方や、時間がかかっている方、排泄後に流し方がわからない方などもおられ、十分な見守りのもと、誇りを損ねないように配慮しながら個々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の食事摂取量把握しながらバランスの取れた食事と水分補給を支援している。排泄記録をもとに必要に応じて緩下剤の服用も配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様個々の気持ちを尊重しながら時間や順番等希望をお聞きし、ご自分から入りたいと思って頂けるような声掛けを心掛けています。就寝前入浴を希望され対応している方もいます。	入浴は1日おきに実施。ほとんどの方が自立しており、見守りや一部介助を行っている。浴槽が2つあり、介助を好まない人には浅い浴槽に入ってもらい外で見守ったり、就寝前の入浴を希望する方にも対応するなど、個々の希望に応じた入浴を心がけている。季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯を実施する他、入浴中に一緒に歌を歌うなど、楽しい入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時はエアコンにて適温を保ち、ゆっくり安眠して頂けるよう支援している。冬季には湯たんぽ等利用して頂いている。日中もソファや居間でゆっくり休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様各々の薬の効果、副作用を職員間で情報共有し、血圧の変動や症状の変化が無い確認している。異常があった場合は主治医へ報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物への同行や花生け等利用者様が楽しみにしておられる事、洗濯物たたみや食器拭き等得意とされている事が役割として提供出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出、お花見や紅葉見物等支援している。買い物など本人様の希望があれば職員同行にて支援している。地域交流の場への参加も支援している。	個別の意向に応じ、買い物・散歩など日常的に行っている。また、年3回の日帰り旅行を実施。これまで、天草・阿蘇・植木・人吉等に多くの利用者とお出かけ、見物・買い物・食事等楽しんでいる。その他、随時、お花見・紅葉狩り・道の駅・動植物園など、行きたい人でドライブに出かけ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には少額づつ管理して頂いており、希望があれば買い物支援し、本人様が欲しいと思われる品必要と思われる品を購入して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は自ら電話しておられる。本人様から要望があれば職員がご家族様に電話を取り次ぎお話し出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に居心地良く過ごして頂けるよう、テーブルやトイレ、玄関等に利用者様に生けて頂いた季節のお花や置物を飾ったり、時期に応じてエアコンやヒーターで快適な温度調整を図ったりして対応している。照明の明るさや空間の清潔にも配慮している。	広く明るいリビングにはテレビが2か所、畳のスペースにはコタツが置かれている。ソファやテーブルも数か所配置され、利用者は思い思いの場所で、自由にくつろいでいる姿が見られた。オープンキッチンからは、食事を作りながらリビング全体を見渡すことができる造りとなっている。壁には外出時の笑顔の写真が掲示され、テーブルや玄関には花が飾られており、優しく居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にDルームや各居室で過ごせるよう支援している。気分によっては離れのホール、ソファでお一人になられることが出来る居場所も提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や持ち物等、以前から使っておられ慣れ親しんだ物を持ちこまれており、使い慣れた物を使って頂くことで少しでも自宅で過ごしている気分になられるよう支援している。	テレビ・冷蔵庫・テーブル・椅子・タンスなど、それぞれ思い思いの家具や家電などを持ち込んでいる。壁への家族写真の掲示や、家具等の配置などは、基本的に本人と家族で行っており、それぞれに居心地の良い部屋づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレには認識出来るよう表示を掲げている。又浴室、トイレ、廊下には手すりを設け動線上には障害物等置かないよう安全にも配慮している。		